

## 第 8 課

# 教会は神のために 何をするのか

第6課では、キリストの体である教会で、クリスチャンがお互いに何をするのかを学びました。第7課では、未信者に対する責任について学びました。教会は、教会自体と人々のために奉仕しなければなりません、また神のために特別な奉仕をしなければなりません。

第1課で、教会に対する神の目的は、神に栄光を帰することであると学びました。では、教会がどのようにして神に栄光を帰することができるのでしょうか。主に従うために教会は何をしなければならないのでしょうか。この課では、これらについて学びます。

祈ることを知っているクリスチャンは、ただ知っているだけにとどめず、それを実行に移すべきです。なぜなら祈りは、神に対する奉仕であり、また特権でもあるからです。私たちは、神を礼拝すべきであると知っており願っていますが、忙しくてできない時があります。あなたがクリスチャンであるなら、神に従う喜びを経験しており、また従えなかった時の良心のとがめも知っておられるでしょう。神に従うということが、神に栄光を帰することなのです。私た



ちは心から神に従い、神に栄光を帰する者となりましょう。

この課であなたが学ぶことは……

礼拝の諸行為

洗礼式

聖餐式

この課を学び終えた結果は……

- 礼拝の定義を理解できる。
- 洗礼式の重要性を理解できる。
- 聖餐式の意義を理解できる。

---

## 礼拝の諸行為

---

学びの目的1 神を礼拝する種々の方法を学ぶ。

第1課で私たちは、教会の目的の一つは神を賛美することであると学びました。クリスチャンは敬虔な生活を通して、神に栄光を帰することができます。パウロもこのことについて、ピリピの教会に次のように書いています。「イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現わされますように」(ピリピ1:11)。

そして、クリスチャンは礼拝を通して、神に栄光を帰します。礼拝するということは、敬意を表わし、名誉を与え、服従することを意味しています。神のすばらしい慈愛に対して、賛美をもって礼拝します。エペソの教会にパウロは、「それは、神がその愛する方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです」(エペソ1:6)と書いています(エペソ1:12、14参照)。

聖書は、信者全員が祭司として、神に祈りと賛美をささげるべきであると記しています。「聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい」(Iペテロ2:5)。教会がささげるいけにえとは賛美です。「ですから、私たち

はキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか」(ヘブル13:15)。



私たちはまた、歌をもって神を礼拝します。歌によって神を礼拝することについては、聖書に多く記されています。旧約聖書の詩篇全部が歌です。ある詩篇には、こう記されています。「主に歌え。御名をほめたたえよ」(詩篇96:2)。パウロがコロサイの教会に手紙を書いた時、この詩篇が頭の中にあっただのかも知れません。「感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい」(コロサイ3:16)。

聖書はまた、神を礼拝するもう一つの方法について教えています。それはささげ物によるものです。ささげるということは、神を礼拝する行為の一つです。パウロが、ピリピの教会に書いた手紙の中で、教会のささげ物に対して感謝しています。「エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です」(ピリピ4:18)。クリスチャンがささげることによって必要が満たされ、そして必要が満たされるので、人々は神を賛美するのです。「なぜなら、この奉仕のわざ(ささげること)は、聖徒たちの必要を十分に満たすばかりでなく、神への多くの感謝を通して、満ちあふれるようになるからです」(Ⅱコリント9:12)。



## 自習のために

正解と思われる言葉に、○印をつけなさい。

**1** 礼拝するとは何を意味しますか。

- |            |              |
|------------|--------------|
| 1) 献金をする。  | 2) 教会に行く。    |
| 3) 敬意を表わす。 | 4) 人々に親切にする。 |

**2** 教会の重要な目的は何ですか。

- 1) 神に栄光を帰す。
- 2) 人々がよい生活をするように助ける。
- 3) 祈るために人々を集める。
- 4) 神に賛美の歌をささげる。

**3** 次のどれが、神に対する礼拝の方法ではないか。

- 1) 神を賛美する。
- 2) 神の慈愛を賛美する。
- 3) 神の働きのためにささげる。
- 4) 不敬虔な生活をする。

**4** 次の文を完結させて下さい。

クリスチャンは \_\_\_\_\_ のいけにえをささげるべきである。

**5** 神を賛美する方法についてのリストを作りなさい。

---



---

ここで気をつけなければならないことは、礼拝とは単に賛美を歌う、祈りをする、献金をすることではありません。これらは礼拝の一部の表現であって、真の礼拝は霊をもって行なわれます。私たち



はクリスチャンたちの集会に行き、賛美を歌うことはできますが、真の礼拝をしているとはかぎりません。「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません」(ヨハネ4:24)。礼拝は、形式・儀式的なものではなく、霊的なものです。「神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです」(ピリピ3:3)。礼拝にともなう活動と、礼拝の霊的な現実性とを混同しないように十分気をつけましょう。



### 自習のために

6 ( )の中から正しいと思う言葉を選んで記入しなさい。

1) まことの礼拝とは \_\_\_ である。

(霊的、儀式)

2) クリスチャンは \_\_\_ によって礼拝する。

(御霊、形式と儀式)

## 洗礼式

学びの目的2 クリスチャンにとってなぜ洗礼式が必要なのか。

私たちが神を愛することは、神を喜ばせることなのです。私たちの神への賛美と愛は、儀式よりまさるものです。しかし、イエスは私たちに二つの儀式を守るように命じられました。その二つの儀式とは、洗礼式と聖餐式です。ではまず洗礼式について学びましょう。

ある人が、クリスチャンになったとき、自分の経験したことを周囲の人々に知らせたいと思います。洗礼式とは、それを知らせる行為なのです。一般的には、教会の牧師が場所を決めて、湖や川などで洗礼式を行ないます。洗礼を受けようと決心したクリスチャンは、水の中に浸され、次に水から上げられます。この儀式は、キリストが、信者のためになされたみ業を象徴しています。信者は、洗礼を受けることにより、キリストの死と復活に一体化されるのです。その事に関して、パウロはコロサイの教会に次のように書いています。

「あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。」

コロサイ 2 : 12



ですから洗礼式は、私たちの古い、罪の生活が葬られ、キリスト・イエスにある新しい生活に入ることを、第三者に示すためなのです。

洗礼式は、未信者を信者にするために行なうものではありません。

洗礼式は人の魂を救うことはできませんし、特別な魔術のようなものでもありません。

初代教会では、人々はキリストを信じた後に、洗礼を受けました。教会にはじめて聖霊が注がれた時、ペテロは人々に信仰の重要性について話しました。すると、「彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた」と聖書に記されています。また、ピリポはサマリヤ地方に福音を宣べ伝えましたが、「ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた」（使徒8：12）と聖書に記されています。

イエスは私たちに、キリストを受け入れた人々に洗礼を授けることを命じられました。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授けなさい」（マタイ28：19）。



### 自習のために

**7** ローマ6：4を読み、次の文を完結しなさい。

私たちは、キリストの\_\_\_\_にあずかるバプテスマによって、キリストとともに\_\_\_\_\_。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から\_\_\_\_\_ように、私たちも、いのちにあって\_\_\_\_\_をするためです。

**8** ( )の中から正解を選んで記入して下さい。

1) 教会が洗礼を守る理由は\_\_\_\_\_

(儀式だから、キリストが命じられたから)



2) だれが洗礼を受けるのか \_\_\_\_\_

(信者、未信者)

3) 洗礼式は \_\_\_\_\_ する。

(人々をクリスチャンに、キリストのみ業を意味)

## 聖餐式

学びの目的3 主の聖餐式の聖書的な意味を学ぶ。

イエスは教会に、洗礼式を守るよう命ぜられました。また聖餐式を守ることを命じられました。最後の晩餐の時、イエスは弟子たちに言われました。「わたしを覚えて、これを行ないなさい」(Iコリント11:24)。



洗礼式のように、聖餐式も礼典の一つであって、決して魔術のようなものではありません。しかし、無意味な形式のものでもなく、私たちが聖餐式を守ることにより、神に栄光を帰しているのです。

パンと杯は、キリストのみ業を示しています。パウロはこのことを通して私たちが、「主の死を告げ知らせるのです」と表現しています(Iコリント11:26)。この儀式を通して、私たちとキリスト

が同一化されることを意味し、そして、キリストの死を私たちに思い出させるのです。

「それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。『これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行ないなさい。』食事の後、杯も同じようにして言われた。

『この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。』」

ルカ22：19—20

ですから、未信者は聖餐式にあずかるべきではないのです。

この行為によって、私たちはキリストと一体となるだけでなく、信者のお互いが一つとされるのです。聖餐式とは、信者が一人で行なうべきものではなく、キリストの体である教会全体が行ない、一致を示す儀式なのです。パウロは次のように書き送っています。

「私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちの裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。パンは一つですから、私たちは、多数であっても、一つのからだです。それは、みなの方がともに一つのパンを食べるからです」

Iコリント10：16—17

聖餐式は、キリストの死にあずかる私たちの信仰を示し、教会の一致を示しています。また、やがて教会を迎えに来られる、キリストの再臨に対する、私たちの信仰をも表わしています。「主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」(Iコリント11：26)。



自習のために

9 次の文で、聖餐式を意味しないものに○印をつけなさい。

- 1) キリストのみ業を示すもの。
- 2) キリストの再臨に対する信仰。
- 3) 神よりの赦しを得るもの。
- 4) 信者の一致の表明。

10 聖餐式と洗礼式を守る最大の理由。

- 1) クリスマンに祝福をもたらすから。
- 2) 宗教的な儀式だから。
- 3) キリストが命じられたから。
- 4) キリストの死を示すので。

教会は、キリストに対してなすべき奉仕があります。それは、キリストに従い、キリストに栄光を帰すことです。そしてこの奉仕は、キリストの再臨の時まで、絶えることはありません。そして再臨のとき、私たちはキリストと共にいることができるのです。その日、その時が来るまで、教会は信者と未信者に、神の計画が何であるかを示さなければなりません。未信者には福音を宣べ伝え、信者には励ましを与え続けるのです。

初代教会は、このように行なっていました。私は、使徒の働き2章46—47節を読むたびに感動を覚えます。

「そして毎日、心をつにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」

初代教会と同じことが、私の教会、あなたの教会についても言えるでしょうか。神は、私たちが教会の奉仕に参加し、私たちの責任



を果たすことを願っておられます。

信者全員が、教会を必要としています。「いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか」(ヘブル10:25)。教会は、キリストにとっても大事なものです。「キリストが教会を

愛し、教会のためにご自身をささげられた」(エペソ5:25)。どうかキリストの教会において、あなたの役目を果たして下さい。

私たちが教会の一部であることは、素晴らしいことです。学びもこれで終わりますが、あなたが教会に対して理解を深められたことを願っています。キリストを伝える役割、教会の意義、神の計画における教会等、いろいろ学びましたが、ここで少し時間を割き、キリストの体である教会のために祈って下さい。そして、神があなたを教会の大事な部分として、更に、奉仕に用いて下さるよう祈って下さい。

レポートを書き終わったら送って下さい。修了証か、シールをお送りします。



## 正 解

- 10 3) キリストが命じられたから。
- 1 3) 敬意を表わす。
- 9 3) 神よりの赦しを得るもの。
- 2 1) 神に栄光を帰す。
- 8 1) キリストが命じられたから。  
2) 信者。  
3) キリストのみ業を意味。
- 3 4) 不敬虔な生活をする。
- 7 死。 葬られたのです。 よみがえられた。 新しい歩み。
- 4 賛美。 礼拝。
- 6 1) 霊的。  
2) 御霊。
- 5 敬虔な生活をする。  
賛美。 祈り。 歌。 ささげ物。

## 記入欄

記入欄

## 記入欄

- この聖書通信講座に使用しました聖書の引用は、すべて〔日本聖書刊行会〕新改訳聖書からです。

教 会

第2回分

---

1986年11月20日 第1版印刷発行

©1978 ICI

著 者 D ・ D ・ ス ミ ー ト ン

翻 訳 者 中 沢 イ サ ク

発 行 所 国 際 聖 書 通 信 学 院

〒170 東京都豊島区駒込 3-15-20

印 刷 所 新 生 運 動

〒352 埼玉県新座市石神 1-9-34

---

落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。 版權所有 D/1986/2145/23



